

佐久市佐久っと支援金事業 自己評価報告書

		評 価 日	令和5年2月1日
団 体 名	大沢地区文化財保存会		
事 業 名	旧大沢小学校魅力アップ事業		
事業経費③	237,830 円	支援金額⑨	118,000 円

事業の目的・内容	地域の課題
	旧大沢小学校は、平成8年6月佐久市の有形文化財に指定をされたが、歴史的建造物として正 当に評価され、その価値や魅力が十分に活かしきれていない。
事業内容	事業内容
	専門的調査を行い近代木造小学校建築物としての歴史文化的価値を検証し発表する。校舎の 価値や魅力を周知するためパンフレットの作成、ガイド養成及び特徴の一つである骨太学校 をアピールするため校舎の模型作りと小屋組見学梯子を再製する。

事業の活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年5月28日（土）、信大工学部建築学科梅干野研究室と長野県建築士会佐久支部合同 で旧大沢小学校（本館）校舎の小屋組みを中心に調査を実施。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年5月21日 小屋裏見学梯子を再製する。</li> </ul> </li> <li>（土）旧大沢小学校観光ガイド講習会の実施（9名参加） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年10月8日、旧大沢小学校2階図書室で「旧大沢小学校調査研究発表会」を開催。信大建築学科の梅 干野准教授より「旧大沢小学校の建築とその特徴」と題して講演及び旧大沢小学校の模型 （1/20）が披露された。続いて、歴史的建造物修復コンサルタントの高村功一氏から「大沢 尋常小学校新築仕様書から見えてくるもの」と題しての講演をして頂いた。刃広（斧）を使 い丸太をはつる実演も実施。参加者は50名。</li> </ul> </li> <li>・ 研究発表を受け旧大沢小学校紹介パンフレット（5,000部）を作成し観光案内所、道の駅、文 化施設、市内小学校他集会施設等に配布した。</li> </ul>



屋根裏見学梯子



10月8日調査発表会

別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	<p>・旧大沢小学校（本館）校舎は、明治中期の学校建築で築130年になるが保存状態が極めて良好である。その要因の一つとして、基礎から軸組・小屋組まで堅牢に造られており、なかでも小屋組に特徴がある。明治期に入ってきた舶来技法の対束小屋組を志向しているが、和小屋組に見られるような大断面の部材を使ったり金具を用いていないなど、在地大工の高度な伝統技術と経験を駆使した架構で擬洋風小屋組と言える。対して、外観意匠は洗練された洋風建築に限りなく近く、そのギャップが時代を表し価値があるという。</p> <p>・明治20年代、信州の一山村に洗練された洋風外観を持つ木造小学校が地元の大工らによって造られ、ほぼ創建時のまま現存していることは貴重で、二人の建築専門家も認めているところ。建物関連の資料として、建築時の新築仕様書、目論見帳又上棟式の棟札や大麻まで保存されていることは今後の保存活動にも有益とのこと。</p> <p>・平成8年6月佐久市有形文化財に指定され27年が経つが、これまで旧大沢小学校を紹介する資料パンフレットはなかった。今後は観光案内所や集会施設等に置きPRができる。来館者にも資料として配布でき、より理解を深めてもらったり、他の人への宣伝に使ってもらえる。</p>
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>① できた    2 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>自己評価を記入</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p>1 できた    ② 概ねできた    3 あまりできなかった    4 ほとんどできなかった</p> <p>自己評価を記入</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>① ほとんど同じ    2 多少の変更があった    3 大幅に変更している</p> <p>主な理由（2、3と答えた場合のみ）</p>
	その他、評価すべき点等	

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>・有形文化財としての歴史的価値や魅力をより高め、活用しながら保存に務めたい。</p>
---------	---



骨太学校はごついだけではない。文明開化期のモダンな空気も残している。玄関と2階講堂入り口の上に半円形のガラスの欄間を付け、2箇所の踊り場付き階段はろくろ加工の手すり子や親柱は優雅で丁寧な造りだ。外壁材は南京下見板でしゃくり付き、四方に胴蛇腹を廻しアールを付けてそのまま軒天を張り、真っ白くペンキが塗られた。ガラス窓の上部に霧よけ<sup>いせ</sup>底、敷居には3カ所水落としを付け雨仕舞いに工夫を凝らすなど細かいところまでこだわった職人らの熱い想いが伝わってくる。



レトロな窓ガラスは景色がゆらぐ

## お洒落な学校 こだわりの想い



### 民俗資料室

校内には、学校建設の際出土した鉄剣や土器・石器を初め、県内では数少ない板碑が何枚も保存されている。また、使い込まれた生活用品や汗の染み込んだ農具などの民俗資料が3教室一杯に収集展示されている。これらは、明治・大正・昭和の暮らしや農業を知るうえで貴重な文化遺産であり歴史の生き証人と言えます。



第1資料室（農具等民俗資料）



龍と花の鬼瓦



窓敷居の水落とし



基礎石換気口の面格子



玄関、上に半円形のガラスの欄間、たたきはレンガ敷き



外壁の下見板断面



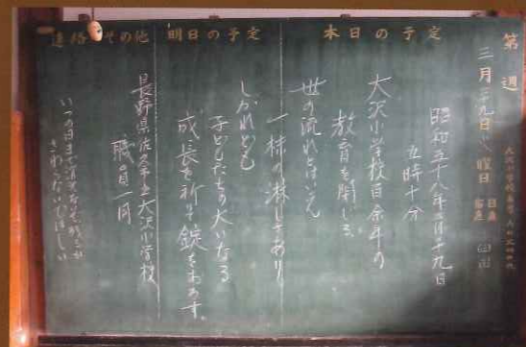
歴代校名の看板

### 旧大沢小学校のあゆみ

- 明治6年7月 大沢村に小学校設立、「文明学校」と称し地家の龍泉院に開校
- 明治7年 文明学校は下町の長命寺に移転
- 明治24年7月 学校新築の件村会で可決。9月から整地工事始まる
- 明治25年2月 大澤尋常小学校校舎新築の件、県知事認可、着工
- 明治25年4月 上棟
- 明治26年5月 竣工移転式行方。同年10月1日学校新築開校式挙行
- 明治40年 東校舎と雨天体操場の敷地拡張工事始まる
- 明治41年5月 東校舎と雨天体操場新築落成式
- 昭和17年 西校舎新築竣工
- 昭和58年3月 野沢小学校と統合し閉校となる。本館を除き校舎解体
- 平成8年6月 旧大沢小学校（本館）佐久市有形文化財に指定



揮毫は大給恒（信濃田野口藩主。老中、陸軍総裁。明治維新後は賞勲局総裁、日赤の創設者の一人）



黒板の言葉、閉校時先生方の想い

■所在地 長野県佐久市大沢 789（大沢地区社会体育館隣）

■交通のご案内

- JR 小海線中込駅から車で10分
- 中部横断自動車道佐久南 IC から10分



地図

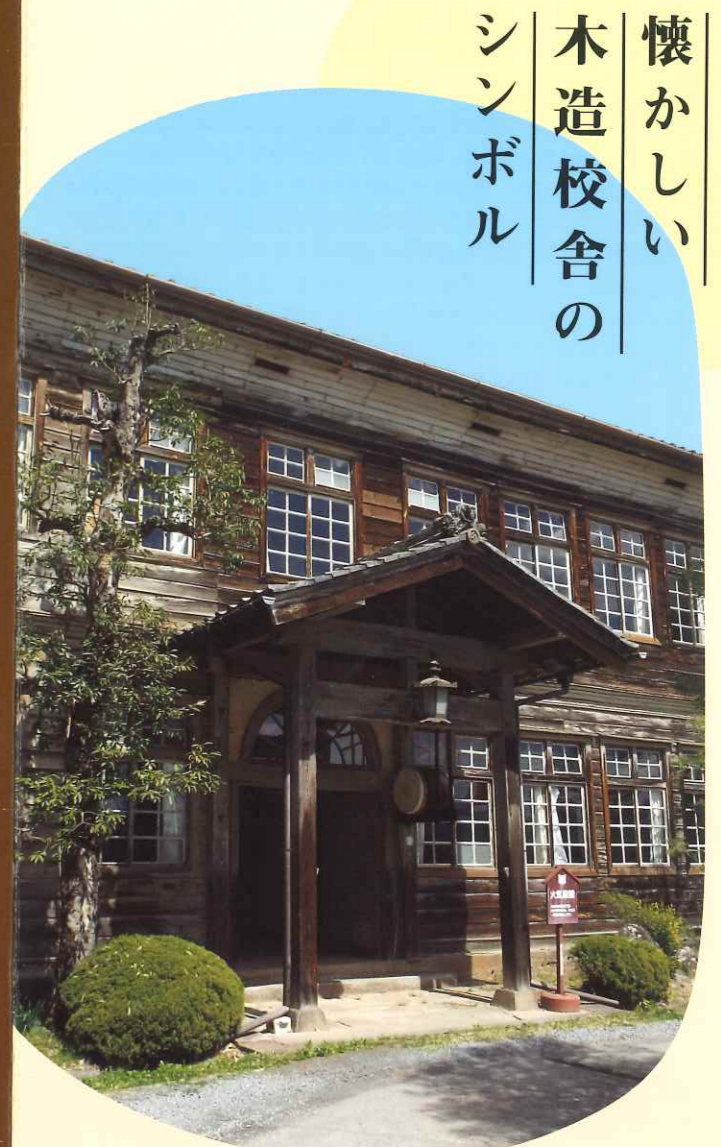
■利用案内

- 一般公開日 / 5月連休中、8月お盆中
- 午前10時～午後4時、観覧料 / 無料
- ※一般公開日以外で見学を希望される方は、事前に佐久市教育委員会文化振興課文化財事務所（tel：0267-63-5321）までご連絡を。



佐久市佐久つと支援金活用事業

大沢どんどん WEB サイト  
http://oosawa-dondon.com/



懐かしい  
木造校舎の  
シンボル

佐久市有形文化財

## 旧大沢小学校

大沢地区文化財保存会



## 学校建築の流れ

近代学校建築は、明治5年の「学制」の頒布と共に始まった。当初は、文明開化の波に乗り、ペランダや塔屋を設け、窓は小さめで上げ下げや開き窓の付いた漆喰壁の学校が造られた。しかし長続きはせず明治10年代でほぼ終息している。明治20年代になると外壁は漆喰から下見板張りが主流となり、窓は大きく開けられ引き違いのガラス窓の入った学校が造られるようになった。形は多少違ってもこの2点は共通で、以後戦後のRC造りに変わるまで日本全国津々浦々に造られた。一方、学校と言えば、どこへ行っても一目で分かるほど人々の記憶の中に溶け込み、今では、懐かしい木造校舎のイメージ像として親しまれている。旧大沢小学校は、そんな全国に普及したいわばスタンダードな木造校舎スタイルの先駆けて、外観の派手さはないが、文明開化期のデザインなども残し、シンプルで洗練された美しさは懐かしい木造校舎のシンボリック存在です。



明治41年5月1日雨天体操場と東校舎新築落成式（左側が現存している本館）

## 旧大沢小学校（本館）の概要

旧大沢小学校（本館）は、明治25年2月、大沢尋常小学校として着工し同年4月20日に上棟、翌明治26年4月に竣工した、木造2階建瓦葺寄棟造りです。玄関を入ると東西に中廊下その両側に教室を配し、中央に踊り場付き階段を設けた明治中期特有の構造をもった校舎です。外壁は西洋下見板張りに胴蛇腹を廻し真っ白くペンキが塗られ、四方に開口部を広く設けて当時は珍しいガラス窓が入る。玄関と2階講堂入り口は、半円形のガラスの欄間で飾った。丘陵地を掘り下げ岩盤の上に大きな真石を据え、その上面に合わせて長さ3mもある切り石を並べた。堅固な基礎の上に通し柱が50本、小屋組みは豪快な部材が縦横斜めに渡る洋小屋造りを応用、校舎は今もって床鳴りもなく頑丈で、創建時のまま今日に至っている。

下見板張りの外壁と広く設けられた引き違いのガラス窓、これはやがて全国に普及する学校建築スタイルで、懐かしい木造校舎像として人々の郷愁を誘っている。

# 歳月が創り出す“本物”の魅力



築130年を超える旧大沢小学校は、外観の美しさに加え、これまで大きな修復はなく、他に転用されることもなく、場所も形も創建時のまま現存し、年を重ねるごとに深味を増し重厚な風合いを醸している。明治中期に建築された

木造小学校が、ほとんど手つかずの状態に残っているのは希少で、学校全体がタイムカプセルのようです。校舎の堅牢さは、基礎から土台、柱、小屋組みまで骨太で、保存の好さは定評です。加えて、窓枠、階段、下見板の造作など繊細で丁寧な造りとなっている。永い風雪を乗り越えてきた木造校舎は、見るからに威風堂々としています。



## 学校建築費用

校舎新築費用は総額3,425円。地ならし代649円、植手間代424円、大工手間代383円、建具代297円、敷地購入代294円などで、資金源は、村費200円、残りは村民の寄付金2,040円と村共有林からの材木代による。動力や機械のない時代、敷地の地ならしから木材出し、製材、加工、組み立てなど全てが人の手によって造られた。学校の用材は地元産のカラマツとアカマツだ。大沢村は林業立村として知られ、明治の早い時期から林業に力を入れていたが、当時はまだ天然林も多くあったに違いない。木を伐採し山で皮むきをしたため、山が真っ白になったと伝わっている。



校舎北側、白ペンキも残り木枠のガラス窓が味わい深い

## 骨太学校の真髄は匠の技にあり

旧大沢小学校の堂々とした佇まいは見る人を驚かさず。実際、高さは棟木天端までが11.4mある。教室内は床からの天井高が3.1m、2階図書室は3.28mもある。そのためか、柱や梁などの構造材が太い。特に豪快な小屋組みには圧倒される。見た目はトラス構造を模った洋小屋風で陸梁の両端から屋根勾配に沿って三角形の合掌材が組まれている。陸梁の上に対策が立ち二重梁を乗せ、その上に真束と方杖で棟木と合掌を支えている。とりわけ、東西2カ所ある隅部が見事で、棟木と5本の合掌斜材を突き上げるように支えている隅真束と五方杖周りは驚きの木組みで、高度な規矩術の見本のようなもの。これらは、いずれも太い太鼓材が金具なしで生まれ、陸梁の上には添え梁まで乗っている。屋根材の加重は相当なものと思われるが、それを支えている柱も太い。今も保存されている新築目論見帳によると通し柱が50本使われ、内訳は7寸角が8本と6寸角が42本となっている。これらの構造材を差し金一丁で墨付け加工し、建設機械などない時代どりの様に持ち上げ組み立てたのが想像するのも難しい。屋根裏は電灯がとり見学も可能です。



東西2カ所ある隅部周りの木組み



対東トラスを模った洋小屋風小屋組



新築目論見帳

新築仕様書



旧大沢小学校（本館）軸組模型  
（信州大学工学部建築学科  
梅干野研究室製作）